

草丈・葉齢平年並み(7月急伸)  
茎数・葉色多め濃いめです。  
コシヒカリの穂肥-幼穂確認



コシヒカリの生育は、7月に入り急激に草丈が伸び葉齢も進み平年並みになってきました。

茎数やや多め、葉色濃いめとなっていますが幼穂の伸長はまだ遅れ気味です。  
コシヒカリの穂肥は必ず各圃場の幼穂を確認して行いましょう。

1. 出穂期の予想

出穂期は平年に比べ早生で4日、中生で3日程度遅い見込み

「5月10日頃移植」

7月10日現在

	出穂期	穂肥 窒素量	穂肥時期		湛水管理 開始時期
			1回目	2回目	
こしいぶき	8/4	2			7/7~
ゆきん子舞	8/3	5~6			7/6~
ひとめぼれ	8/4	2~3		7/21~7/25 (-14~-10)	7/7~
コシヒカリ	8/11	1~3	7/24~7/27 (-18~-15)	8/1 (-10)	7/17~
わたぼうし	7/30	2~3			7/3~
こがねもち	8/6	1~3	7/19~7/22 (-18~-15)	7/27 (-10)	7/12~
五百万石	7/30	1~2			7/3~

※ 今後、平年並みの気候で推移した場合の予想です、気象変動で変わることがあります。

「5月連休移植」

	出穂期	穂肥 窒素量	穂肥時期		湛水管理 開始時期
			1回目	2回目	
こしいぶき	8/1	2			7/10
ゆきん子舞	7/31	5~6			7/9
ひとめぼれ	8/1	2~3		7/18~7/22 (-14~-10)	7/10
コシヒカリ	8/9	1~3	7/22~7/25 (-18~-15)	7/30 (-10)	7/17
わたぼうし	7/28	2~3			7/5
こがねもち	8/4	1~3		7/25 (-10)	7/12
五百万石	7/28	1~2			7/5

## 2. コシヒカリ穂肥施用のポイント ~出穂後の後期栄養を確保し、倒伏させないために~

### 【分施による 穂肥施用時期のめやす】

- 管内のコシヒカリは、7月に入り生育が進みました。10日以降の草丈の伸びが(75~80cm)に収まっているか、葉色がさめてきたかを見極め1回目の穂肥を実施しましょう。
- 2回目の穂肥は、後期栄養を確保するため規定量(N1.0~1.5kg)を適期に、また確実に実施しましょう。
- 気象予報では、7月曇雨天多め、8月晴天多めと出ています。  
出穂10日前の稲姿を確認し後期栄養の不足が予想される場合、下表を参考に出穂直前の穂肥を検討しましょう。

### 施肥体系別穂肥時期めやす ※今年の稲姿と天候を考慮した時期です。

穂肥に使用する肥料の種類	出穂前日数							
	28~25日前	23~20日前	20~15日前	18~15日前	15~12日前	10日前	6日前	3日前
化学肥料				1回目		2回目		3回目 出穂3日前葉色33 以下の場合N1.0kg
有機質肥料								
有機由来 N50%		1回目			2回目			3回目 出穂6日前 葉色33(葉色板4.3) 以下の場合N1.0kg
有機由来 N100%	1回目		2回目					3回目 出穂6日前 葉色33(葉色板4.3) 以下の場合N1.0kg

※ 3回目は後期栄養の不足が心配されるときのみ。

### 【基肥一発肥料使用における穂肥対応】

基肥一発肥料は穂肥施用の必要はありませんが、例年後期栄養不足のほ場が見受けられますので出穂10日前頃の稲姿により追肥を実施し登熟の向上を図りましょう。

- 低地力で後期栄養が持続しないほ場、または極端に葉色がさめているほ場。
- 基肥一発肥料の施用量が少なく葉色がさめているほ場等。

## 3. 水管理

米粒は開花後長さ・幅・厚の順に25日位で外形が完成し、30日頃より米粒内容の充実が図られます。

飽水管理から湛水管理へ移行し収穫前は、飽水管理を行い下葉の枯上がりや根の健全化を図り早期落水は避けましょう。

また、地温を下げるため水の更新を適時行いましょう。

いもち病、カメムシ防除に当たっては周囲への飛散に充分注意しましょう。